



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education

機構ニュース

Vol.186 2018 November

今月の記事

Top News

- 第1回学位取得者表彰式を開催1
- 大学ポートレート（国際発信版）のウェブ
サイト公表開始3

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業生等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

- 平成30年度10月期申請における試験日程について4
- 288人に学士の学位を授与 ―平成30年度
4月期申請分―5

評価事業

大学機関別認証評価について

- 「平成31年度から実施する大学機関別認証
評価に関する研修会」の開催7

質保証連携

**諸外国の質保証制度・動向情報の収集・
整理・提供**

- タイの教育省と質保証機関の来訪8

調査研究

- 平成30年度「第1回研究開発部セミナー」
を開催9
- 平成30年度研究活動の不正防止等に関する
研修の開催について10

機構の窓

- 会議の開催状況11

主要行事日程

- Schedule（11月～1月）12

TOP NEWS

○第1回学位取得者表彰式を開催

9月7日（金）に当機構の竹橋オフィスで、平成3年度機構設立以降、初めての「学位取得者表彰式」を行いました。当機構では、学校教育法第104条の規定に基づき、我が国において大学以外で学位を授与する唯一の機関として、学位授与事業を実施しており、これまで8万人を超える人々に学位を授与しています。

平成29年度から、学士の学位を取得した者のうち、生涯学習に努め、特に精励したと認められた者を、機構長が表彰する「学位取得者表彰制度」を創設しました。賞の名称は、「機構長緑秀賞」で、これは機構ロゴマークにも使用されている希望を意味する“緑”色と、生涯学習に“秀”でた者に対する賞であることに由来しています。

今年度は、平成29年度の学士の学位取得者から選考された2名に対し、福田機構長より表彰状と記念品が授与されました。その後、福田機構長より、「受賞者の長年の学修における努力に対して心からの敬意を表するとともに、それぞれの学修成果について審査委員から高い評価を受けたことにより、直接表彰状を授与できることは喜ばしい」などの挨拶があり、続いて、受賞者から感謝の言葉が述べられました。

また、表彰式の終了後には懇談会が行われ、学位取得のきっかけや、生涯学習に関する体験などについて和やかに語られ、有意義で貴重な機会となりました。

なお、当機構では、年2回学位授与申請を受け付けており、学位取得までの流れは、

機構ウェブサイト（https://www.niad.ac.jp/n_gakui/application/shinseishiryoku.html）で公開しています。



受賞に際し挨拶の言葉を述べる中谷氏㉔、伏見氏㉕



機構役員と記念撮影をする受賞者

○受賞者2名よりいただいたメッセージを紹介いたします。

中谷 三佳 様 （基礎資格：第2区分 専攻分野の名称：看護学）

この度、機構長緑秀賞を受賞し、大変光栄です。表彰式では新たに気持ちが引き締まる思いをいたしました。30年ほど前、助産師（婦）学校を卒業した頃は全国でも看護系大学は数少なく、勤務をしながら大学の通信教育と放送大学の単位を取得していましたが、仕事とPTA役員などで学士のことをすっかり忘れていました。そのような折、大学院への進学をすることになり今回の学位申請を決心し、勤務での取組を学修成果レポートにまとめ学位を取得することができました。

現在は大学院博士前期課程に通い「NICUに入院した児の母親の母乳育児自己効力感とその関連要因」について研究をしています。学位を目指してから30年を経て取得にいたるという気の長い話ですが、いくつになっても学ぶものが多く研究などを通して発見することがあり、素晴らしい体験であると感じています。今後も可能であれば博士後期課程に進み学び続けていきたいと考えています。

学位を目指す皆様、学士を取得したのち様々な可能性があります。自分の行っている仕事に関する分野の学位を目指す場合、学問全体の中でのその分野の位置づけや分野の学識が深まります。また、今まで子どもの世話や家のことで精一杯働かれてきた女性の方々や定年を迎えられた男性の方々にも放送大学で興味のあることを学ぶ楽しみを見出していきたいと考えています。

伏見 靖 様 （基礎資格：第3区分 専攻分野の名称：学芸）

表彰の通知をいただいた際、正直言って驚きました。論文試験の設問が予想よりも難しく、何とかスペースを埋めたとはいえギリギリの合格だったと思っていました。しかし、表彰式後の懇談会で、難しい設問に出題者の意図通りに解答していたことが評価されたと伺い、設問の趣旨を悩みつつ解読し、諦めずに時間いっぱい使って記述して本当に良かったと思うと共に、拙い学修レポートの本質を読み解いていただいた出題者の先生に感謝する次第です。

機構による学位授与の制度は、知人がブログで紹介しているのを読んで偶然知りました。今回取得した学士は、仕事に直接関係する分野であったため、迷うこと無く挑戦することにしました。申請のための単位は既に取得済のものがほとんど使えた上、学修成果レポートの作成にあたって必要な文献は、職場の勉強会や所属する学会で既に集めていたものがあったため、通信制大学での科目履修を含め、半年ほどの準備期間で申請ができたのは幸運でした。

現在、学会等に投稿するための論文の執筆中ですが、一段落したら、通信制大学で科目履修を行い、自分が今まで関わらなかった学問分野も学習し、別分野の学士に挑戦したいと考えています。

○大学ポートレート（国際発信版）のウェブサイト公表開始

当機構は平成 30 年 10 月 16 日（火）より、大学ポートレート（国際発信版）のウェブサイトを開し、国公立大学の教育情報英語による公表を開始しました。

大学ポートレートとは、データベースを用いた国公立の大学の教育情報を公表・活用する共通的な仕組みとして、大学の教育情報を広く社会に公表するため、大学のオフィシャルな教育情報を共通のフォーマットに基づいて専用ウェブサイトを通じて社会に公表するものです。公表される教育情報は、大学自らが責任を持って提供しており、信頼性の高い最新情報が掲載されています。

大学ポートレートの日本語版は平成 27 年から公表されていますが、この度公開された大学ポートレート（国際発信版）の各大学の公表項目は、日本の大学への留学を希望する海外の学生に向けて大学が公表すべき事項について、海外大学関係者を含む専門委員会にて協議、決定されたものです。日本の大学への留学を希望する学生や海外機関等に幅広く活用されることが期待されます。

大学ポートレート（国際発信版）ウェブサイト URL

<https://jpcup.niad.ac.jp/>

平成 30 年度参加大学数

国立大学：81 大学

公立大学：41 大学、公立短期大学：2 大学

株式会社立大学：3 大学

The screenshot shows the JPCUP website interface. At the top, there's a navigation bar with links: HOME, Advanced Search, News from schools, What is Japanese College and University Portraits?, and Planning to study in Japan?. Below the navigation bar is a large banner area with a search bar and the text 'Find Your University'. Under the banner, there's a 'Quick Search' section. It includes a 'MAJOR' dropdown menu, an 'INSTITUTE TYPE' dropdown menu, and a 'DEGREES' section with checkboxes for Associate's, Bachelor's, Master's, Doctoral, Professional Degree, and Juris Doctor Degree. There is also a checkbox for 'Degree Programs Offered in English'.

学位授与事業

短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与関係

当機構では、短期大学や高等専門学校を卒業、あるいは専門学校を修了するなど、すでに高等教育機関において一定の学習を修めた者に対して、審査の上、学士の学位を授与しています。

当機構の「学士の学位」を取得するためには、上記学校を卒業または修了するなど一定の学習を修めた後、大学において科目等履修生制度を利用するなど必要な単位を修得し、「修得単位の審査」及び「学修成果・試験の審査」を受ける必要があります。この二つの審査に合格すると、大学卒業者と同等以上の学力を有すると認められ、「学士の学位」が授与されます。

（※短期大学・高等専門学校卒業者等を対象とする単位積み上げ型の学位授与（学士）について詳しく知りたい方は、[こちら](#)をご覧ください。）

学位授与申請は、毎年度2回（4月期と10月期）受け付けており、平成30年度10月期においては、582人の申請を受け付けました。平成30年度10月期は、12月9日（日）に面接試験を東京で実施し、12月16日（日）に小論文試験を全国2か所（東京・大阪）で実施します。

○平成30年度10月期申請における試験日程について

1 試験日・試験場

試験の区分	試験場	試験日時
小論文試験 （学修成果として レポートを提出した者）	東京地区 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 小平本館 （東京都小平市学園西町1-29-1）	平成30年12月16日（日） 午前の部： 10時30分～12時00分 午後の部： 14時30分～16時00分
	大阪地区 CIVI 新大阪研修センター （大阪府大阪市淀川区西中島3丁目9-13 NLC 新大阪8号館）	
面接試験 （専攻の区分「音楽」、「美術」、 「演劇」のいずれかでレポート 以外の学修成果を提出した者）	東京地区 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 小平本館 （東京都小平市学園西町1-29-1）	平成30年12月9日（日） 面接試験時間は受験票で ご確認ください。

2 受験票などの送付

受験票は、受験者心得とともに試験日の10日前までに送付しています。平成30年度10月期においては、11月16日（金）に発送しました。

【お問合せ先】

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構管理部学位審査課

〒187-8587 東京都小平市学園西町1-29-1

電話：042-307-1550（問合せ専用）

受付時間：9:00～12:00 13:00～17:00（土・日曜、祝日、年末年始を除く。）

〇288 人に学士の学位を授与 ―平成 30 年度 4 月期申請分―

平成 30 年度 4 月期に学士の学位授与申請のあった短期大学、高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等 331 人のうち、288 人に対し学士の学位を授与しました。

今回の学士の学位授与については、関係各専門委員会で行われた修得単位の審査及び学修成果・試験の審査の結果に基づき、平成 30 年 8 月 24 日（金）開催の学位審査会において審査が行われました。

〈平成 30 年度 4 月期学士の学位授与申請者数及び取得者数〉

（専攻の区分別）

専攻分野の名称	専 攻 の 区 分	申 請 者 数 （ 人 ）	取 得 者 数 （ 人 ）
文 学	歴 史 学	1	1
	哲 学	2	1
教 育 学	教 育 学	13 [1]	10 [1]
社 会 学	社 会 学	2	1
教 養	比 較 文 化	1	1
法 学	法 学	4	2
理 学	数 学 ・ 情 報 系	1	0
	物 理 学 ・ 地 学 系	2	1
	生 物 学 系	1	0
	総 合 理 学	1	0
薬 科 学	薬 科 学	1	0
看 護 学	看 護 学	216	199
保 健 衛 生 学	検 査 技 術 科 学	5	4
	臨 床 工 学	13	12
	放 射 線 技 術 科 学	9	7
	理 学 療 法 学	12	11
	作 業 療 法 学	1	1
	言 語 聴 覚 障 害 学	3	1
鍼 灸 学	鍼 灸 学	1	0
口 腔 保 健 学	口 腔 保 健 衛 生 学	1	1
栄 養 学	栄 養 学	9	6
工 学	機 械 工 学	4	4
	電 気 電 子 工 学	3 [1]	2 [1]
	情 報 工 学	2	2
	応 用 化 学	1	1
	材 料 工 学	1	0

	土 木 工 学	2 [1]	2 [1]
	建 築 学	1	1
商 船 学	商 船 学	16 [16]	16 [16]
芸 術 学	美 術	2	1
合 計		331 [19]	288 [19]

※ []内は特例適用専攻科修了見込での申請者数及び取得者数で内数。

評価事業

■大学機関別認証評価について

○「平成31年度から実施する大学機関別認証評価に関する研修会」の開催

当機構に大学機関別認証評価の申請を予定している大学の自己評価担当教職員の方々を対象として、3巡目の新しい評価基準に則した自己評価の方法等について理解を深め、効果的、効率的な認証評価を実施することを目的に、研修会を以下の日程で行いました。

今回の研修会では、国立65大学、公立8大学、私立2大学、その他1機関の合計76機関から合計316名の参加がありました。

研修会では、土屋研究開発部特任教授による、当機構が実施する3巡目の大学機関別認証評価（平成31年度から実施）に関して寄せられた質問や、領域2及び6の各基準に関する自己評価の分析方法についての解説、齊藤評価支援課課長補佐による自己評価書提出方法の説明等が行われました。質疑応答の機会を多く設け、申請予定校から事前に提出いただいたデータを基に解説するなど、実践に即した研修会となりました。

＜「平成31年度から実施する大学機関別認証評価に関する研修会」 日程＞

会 場	開 催 日	時 間
TKP ガーデンシティ竹橋	平成30年10月5日（金）	10:00～16:00



研修会の様子

※上記研修会の配布資料は、当機構の[ウェブサイト](#)に掲載しています。

質保証連携

諸外国の質保証制度・動向情報の収集・整理・提供

○タイの教育省と質保証機関の来訪

当機構では平成 30 年 9 月から 10 月にかけて、タイの教育省及び質保証機関からの訪問をそれぞれ受け入れました。

平成 30 年 9 月 25 日（火）には、タイ教育省高等教育局（OHEC：Office of the Higher Education Commission）より、前事務次長の Bundit Thipakorn 氏、高等教育基準評価部長の Nutnapa Ruenobcheoy 氏他 3 名が当機構を訪問しました。また、平成 30 年 10 月 2 日（火）には、タイの質保証機関である全国教育水準・質評価局（ONESQA：Office for National Education Standards and Quality Assessment）より、運営委員会会長の Vichai Reutrakul 氏、局長の Namon Jeerungsuwan 氏他 2 名が当機構を訪問しました。いずれの機関も、日本の高等教育の質保証制度や、機構の行う質保証活動についての理解を深めることを目的として来訪し、当機構の役職員と情報交換を行いました。

当機構からは、土屋研究開発部特任教授等より、日本における高等教育質保証の仕組みと当機構の評価事業の概要について説明を行いました。

OHEC からは、教育省の高等教育局である OHEC が、将来的には科学技術省と統合し、独立した省ができる予定である旨、また ONESQA からは、大学の外部評価を行う機関について、将来的には ONESQA 以外にも、日本と同様に複数の評価機関を設立し、大学が自由に受審先を選択できるよう検討されている旨の説明がありました。

今回の来訪を通じ、政府の立場で大学の内部質保証を支援する OHEC と、独立した質保証機関である ONESQA という、2 つの機関と意見交換を行うことで、タイの高等教育の現在の姿についてより重層的に理解を深めることができました。



会合参加者の集合写真（左：OHEC 来訪時、右：ONESQA 来訪時）

調査研究

○平成 30 年度「第 1 回研究開発部セミナー」を開催

研究開発部では、平成 30 年度、教員が当機構における調査研究や自らの専門分野に関する調査研究について紹介するセミナーを開催しています。

第 1 回は、平成 30 年 7 月 19 日（木）に、竹中亨教授（専門分野：西洋史・日独関係史）が「ヴィルヘルム 2 世の実像と歴史的役割」をテーマに研究発表を行いました。

「カイゼル」の異名で知られるドイツ皇帝ヴィルヘルム 2 世は、第一次世界大戦勃発のキーパーソンの一人として有名である。一般には、「男性的」・尚武的で、ドイツ至上主義を象徴する人物と見られることが多い。しかし実際には、彼は種々の横顔をもつ、矛盾の塊のような人間であった。そこで本セミナーでは、この人物の実像を紹介するとともに、彼がドイツ近現代史のなかでどんな役割を果たしたかについて考察した。（竹中教授より）

本セミナーでは、教員のみならず、事務職員等も参加し、日頃詳しく話をする事の少ない教員の専門分野に関して活発な議論や質疑応答が行われ、有意義な機会となりました。

なお、竹中教授は平成 30 年 5 月に、著書『ヴィルヘルム 2 世 ドイツ帝国と運命を共にした「国民皇帝」』（中公新書）を出版しました。



質疑応答を行う竹中教授

○平成 30 年度研究活動の不正防止等に関する研修の開催について

平成 30 年 9 月 21 日（金）に平成 30 年度研究活動の不正防止等に関する研修を開催しました。

当研修は、研究費等の管理・運営に当たる教職員を対象に、研究倫理、研究者の責務、公正な研究、法令遵守等について認識を深めることを目的として開催したものです。

当日は、当機構管理部戸田総務企画課課長補佐から「機構における研究活動の不正防止等に関する取組について」と題して、機構における不正防止の取組、研究不正等の通報窓口等について、また、当機構コンプライアンス推進責任者（兼）研究倫理教育責任者の山本研究開発部長から「公正な研究活動について」と題して、研究費の不正使用、研究活動における不正行為、適切なデータの保存の重要性等について、講義が行われました。

最後の意見交換では、他機関での不正使用の事例やアンケート調査等の適切なデータの取扱いについて等、参加者と講師の間で活発な質疑応答が行われました。



コンプライアンス推進責任者（兼）研究倫理教育責任者の山本研究開発部長による講義



戸田総務企画課課長補佐による講義

機構の窓

○会議の開催状況

- ・ 国立大学教育研究評価委員会

第 51 回 平成 30 年 10 月 18 日(木) 13時00分～15時00分

議事

- 1 第3期中期目標期間の教育研究の状況の評価に係る実績報告書作成要領
及び評価作業マニュアルの策定に当たり主な検討すべき事項への方向性について
- 2 その他

主要行事日程

○ Schedule

11月

日	行事名	担当課
9日	学位審査会（平成 30 年度第3回）	学位審査課
12日	平成 30 年度人材育成セミナー「IR データ分析ワークショップ（第 1 回）」	評価企画課
18日～ 21日	台湾高等教育評鑑中心基金会とのスタッフ交流（派遣）	国際課

12月

日	行事名	担当課
9日	平成 30 年度 10 月期学位授与試験（面接）（東京地区）	学位審査課
16日	平成 30 年度 10 月期学位授与試験（小論文）（東京地区、大阪地区）	学位審査課

1月（2019年）

日	行事名	担当課
17日	高等専門学校機関別認証評価委員会（第2回）	評価支援課
25日	大学機関別認証評価委員会（第3回）	評価支援課
31日	法科大学院認証評価委員会（第3回）	評価支援課



独立行政法人

大学改革支援・学位授与機構

National Institution for Academic Degrees and Quality Enhancement of Higher Education